

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(夜間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	基礎医学演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	藤江 洋志、松井 豊子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
基礎医学演習では、解剖生理学、病理学、臨床生理学の基礎から応用までを復習し、各分野の主要な概念と臨床的意義を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験：70% 2. 出席点：20% 3. 平常点：10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床工学技士標準テキスト第4版 金原出版						
《授業外における学習方法》						
授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	人体の基本的な構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準 テキストなど		授業後の復習と関連する 国家試験の問題とその 解説を学習しておくこと。
		各コマにおける 授業予定	細胞、組織、器官、系統の基本概念について学ぶ。			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	神経系の構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準 テキストなど		授業後の復習と関連する 国家試験の問題とその 解説を学習しておくこと。
		各コマにおける 授業予定	中枢神経系と末梢神経系の役割、神経伝達の仕組みについて学ぶ。			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	循環器系の構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準 テキストなど		授業後の復習と関連する 国家試験の問題とその 解説を学習しておくこと。
		各コマにおける 授業予定	心臓の構造、血液循環の仕組み、血圧の調節について学ぶ。			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	呼吸器系の構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準 テキストなど		授業後の復習と関連する 国家試験の問題とその 解説を学習しておくこと。
		各コマにおける 授業予定	肺の構造、ガス交換の仕組み、呼吸調節について学ぶ。			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	消化器系の構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準 テキストなど		授業後の復習と関連する 国家試験の問題とその 解説を学習しておくこと。
		各コマにおける 授業予定	消化管の構造、消化と吸収の過程、肝臓と膵臓の役割について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系の構造と機能を理解する。		授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	腎臓の構造、尿生成の仕組み、体液と電解質の調節について学ぶ。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内分泌系の構造と機能を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	主要な内分泌腺とホルモンの役割、ホルモンの調節機構について学ぶ。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	病理学の基本的な概念を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	病気の原因と発生機序、炎症と修復、腫瘍の基本概念について学ぶ。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染症と免疫反応の基本的な概念を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	病原体の種類と感染経路、免疫系の構造と機能について学ぶ。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環器系の主要な疾患とその病理を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	動脈硬化、心筋梗塞、心不全の病態と診断について学ぶ。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の主要な疾患とその病理を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	肺炎、COPD、肺癌の病態と診断について学ぶ。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	消化器系の主要な疾患とその病理を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	胃潰瘍、肝硬変、大腸癌の病態と診断について学ぶ。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系の主要な疾患とその病理を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	腎炎、腎不全、膀胱癌の病態と診断について学ぶ。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床生理学の基本的な概念を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生理機能検査の種類と意義、心電図、呼吸機能検査、脳波検査について学ぶ。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床生理学の応用方法を理解する。	臨床工学技士標準テキストなど	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を学習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生理機能検査の結果の解釈と臨床判断、最新の生理機能検査技術について学ぶ。		